

奥越高原青少年自然の家(1/2)

トリニガ
大自然



福井県立奥越高原青少年自然の家

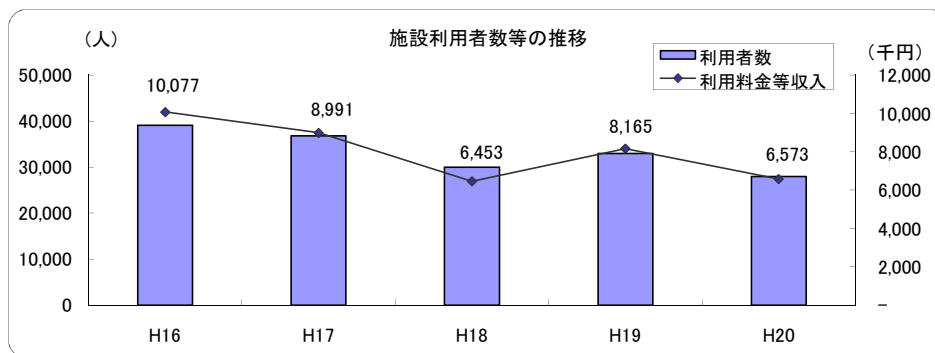
所在地	大野市南六呂師169-8		
設置年月日	昭和47年1月5日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階建延7335.93㎡ 宿泊室(350名)、研修室(洋2、和2)、多目的ホール、体育館、スキー用具室、キャンプ場3箇所(416名)		
職員数	職員12人		

利用状況等

	H16	H17	H18	H19	H20
利用者数(人)	39,085	36,758	30,005	32,951	27,985

利用者負担(利用料金)等

宿泊棟 利用料	26歳以上	1,100円
	26歳未満	620円
	高校生	470円
	小・中学生	310円



利用状況の推移	<p>団体数の漸減に加え、児童数の減少により利用者は減少傾向にあります。また、近年の暖冬で冬季の利用を控える傾向があるようです。県外の小中学校やスポーツクラブなどの利用は漸増しています。キャンプ場の利用については、炊さん場や魚つかみ場の利用頻度は高いですが、テント泊は減少しています。</p>
---------	--

施設の特徴

勝山市と大野市にまたがる奥越高原県立自然公園の標高600mに位置し、周囲にある経ヶ岳を中心とする山と溪流、隣接する六呂師スキー場を利用して野外活動が体験できる山岳型拠点施設です。

- ・宿泊棟は最大350人が利用できる大型の施設です。
- ・キャンプ場は3カ所あり、初心者から上級者までレベルに合わせた利用が可能です。
- ・近隣には、県自然保護センター、県奥越高原牧場、ミルク工房奥越前などがあり、四季を通して大自然の中でさまざまな体験活動ができます。



奥越高原青少年自然の家ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/svougak/okuetu/hp-1.3/index.htm>

平成20年度の特徴について

事業実績	<p>①7日間のサマーチャレンジ教室を実施しました。参加者の92%、保護者の97%が「参加して良かった」と答えており、「いろいろな体験ができ、多くの友達ができ、とても楽しかった」「人との出会い、自然とのふれあい、共同生活など普段出来ない体験は、本人の成長にとって大きなプラス」などの意見がありました。【参加者数:32名】</p> <p>②ファミリーキャンプ・紅葉登山など、奥越高原の豊かな自然を活かした主催事業を実施しました。【参加者数:181名】</p> <p>③『もりっ子教室』として「星空ウオッチング」4回、「ハイキング教室」・「ものづくり教室」を各3回実施しました。【参加者数:262名】</p> <p>④キャンプカウンセラー研修を養成事業として3回実施しました。また、企画力を付けるため、カウンセラー自身によるステップアップ研修も実施しました。【延参加者数:146名】</p>
------	---

奥越高原青少年自然の家(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	126,300	51.3%	93.2%
	退職給与引当金繰入	▲ 7,811	-3.2%	5007.1%
	賞与引当金繰入	6,111	2.5%	皆増
	計	124,600	50.6%	92.1%
物にかかるコスト	物件費	58,585	23.8%	108.6%
	維持補修費	7,620	3.1%	63.5%
	減価償却費	54,485	22.1%	100.0%
	計	120,690	49.0%	100.2%
その他	支払利息	1,085	0.4%	64.5%
	その他	57	0.0%	93.4%
	計	1,142	0.4%	65.5%
合計		246,432	100.0%	95.7%
収入	利用料等収入	6,573	2.7%	80.5%
	一般財源	239,859	97.3%	96.4%

バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	2,026,190	97.4%	固定負債	141,431	84.5%
うち土地	1,879	100.0%	うち起債残高	57,048	80.0%
うち建物	2,011,004	94.9%	うち退職手当引当金	84,383	81.6%
投資等	0	-	流動負債	24,307	341.1%
流動資産	0	-	純資産	1,860,452	97.6%
計	2,026,190	97.4%	計	2,026,190	97.4%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	2,494	2,552	97.7%
県民1人あたり将来負担額	174	205	84.8%
世代間負担率	91.8	91.6	100.2%

バランスシート、行政コスト計算書の特色	<p>人にかかるコストは、全体経費の約5割を占めていますが、平成20年度から職員が1名減ったために人件費は6.8%減少しています。</p> <p>物にかかるコストは、燃料費の高騰等により物件費が8.6%増加しましたが、大規模な修繕等が無かったことから、前年度比の0.2%の増に抑えることができました。</p> <p>行政コスト全体では、前年度比4.3%の減少、県民1人あたりの負担額も3.3%減少しています。なお、施設利用者が引き続き減少傾向にあり、利用料金等収入は19.5%減少しています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。</p> <p>設備の充実と収容人員の拡大のため、平成7および9年度にかけて宿泊施設の全面改築を行いました。この際に約20億円の借入れを行いました、20年度末残高57百万円まで償還が進んでいます。</p> <p>他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>利用団体の活動支援に係る事業 施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) 【H21予算額:約67百万円】</p>
今後の課題	<p>17年度から、キャンプ場利用が減少しています。原因としては、利用者のニーズに合致していないことにあると思われます。トイレの改修、バリアフリー化など環境整備が必要です。</p> <p>天候に左右されることなく活動ができる設備の充実、アクティビティを開発することが必要です。</p> <p>青少年団体等の受け入れ基準、制限があり利用人数増につなげることができないので、受け入れ基準の見直しが必要です。</p> <p>予算の効果的な執行により、利用者の活動・施設・食事の安全確保にかかる経費を充実させる必要があります。</p>
今後の事業方針 取り組み内容	<p>変化に富んだ地形・豊かな動植物・四季折々の美しい風景など恵まれた立地条件と、周辺一帯の資源を最大限活用し、登山・キャンプ・ハイキング・魚つかみ・オリエンテーリング等幅広い体験の場となるよう取組みます。</p> <p>また、天候に左右されない環境・食・社会奉仕の3つに力を入れた自然体験活動を取り入れ、実施事業の充実を図ります。</p> <p>学校訪問を積極的に行うほか、ホームページや広報誌を利用した広報活動を行います。周辺の施設、地場産業との連携を強化し、新たなアクティビティの開発に努めます。</p> <p>近年、長期宿泊を行う京都市内の小学校が増えていることから、長期滞在型(4泊)のモデルプログラムを作成し、京都市内の小学校に提示します。</p>

